

子どもの生活と環境
目次



まえがき 12

4月

卯月（うづき） 13

1. お花見 15

1-1. サクラの種類 15

1-2. サクラ前線 16

1-3. 桜の名所 18

1-4. 桜を詠んだ歌 18

コラム 緑の週間 20

5月

皐月（さつき） 21

1. 八十八夜 23

1-1. 春から夏への別れ霜 23

1-2. 霜と霜柱 23

1-3. 農作業と農作物の旬 25

1-4. 生物季節（フェノロジー） 25

1-4. 自然の観察 32

2. さわやかな五月 34

2-1. 潮干狩 35

2-2. 潮の満ち干き 36

2-3. 移動性高気圧 39

2-4. 愛鳥週間 41

3. 端午の節句（節供） 42

3-1. 武者人形・鯉のぼり 42

3-2. ちまき・柏餅 43

3-3. こどもの日 43

コラム 五節句 44

4. 母の日 45

4-1. 日本での受け入れ 45

4-2. カーネーション 45

4-3. 「母親」の存在 46

5. 花祭り（灌仏会） 49

5-1. 釈迦の誕生 49

5-2. 釈迦の教え 50

6月

水無月（みなづき）

51

1. つゆ（梅雨） 53

1-1. 梅雨 53

1-2. 梅雨前線 54

2. 衣替え（更衣） 56

2-1. 季節の移り変わりと衣服 56

2-2. 合着の季節 57

3. 夏越し（輪くぐり） 59

3-1. 祓えの習俗・輪くぐり 59

3-2. 蘇民将来の信仰 59

3-3. 夏の準備 60

4. 田植え 61

4-1. 地域生活と田植え 61

4-2. 「一粒の米」 61

コラム お米のできるまで 62

5. 父の日 63

5-1. 「父親」の存在 63

5-2. 今日の生活と「父の日」 64

5-3. 父親と子ども 65

6. 虫歯予防デー 66

6-1. 虫歯予防デー 66

6-2. 虫歯と歯磨き 66

7. 時の記念日 68

7-1. 時間のとらえ方 68

7-2. 地球の公転と自転 69

7-3. 天動説的見方での整理 70

7-4. さまざまな時計 70

7-5. 世界の時刻（時差） 71

7月

文月（ふみ（ふ）づき）

73

1. 七夕 75

1-1. 牽牛と織女との出会い 75

1-2. たなばたさま 76

1-3. 夏の星座 76

2. 土用の丑の日 78

2-1. 土用のうなぎ 78

2-2. 土用は1年に4回ある 78

2-3. 土用波 79

3. お中元 80

3-1. 万物の元 80

3-2. お中元 80

4. 虫と生活 81

4-1. 防虫や殺虫 81

4-2. 虫送り 82

4-3. 「虫送り」の人形 82

5. 豊かな自然 84

8月

葉月 (はづき) 85

1. お盆 (盂蘭盆) 87

1-1. 祖先をまつるためのお盆 87

1-2. 精霊流し 88

コラム 盆踊り 88

2. 夕立ち 89

9月

長月 (ながつき) 91

1. 二百十日 93

1-1. 風鎮めの祭り・風祭り 93

1-2. 防災 93

1-3. 台風の発生 94

2. お月見 98

2-1. 十五夜と十三夜 98

2-2. 科学とメルヘン 99

2-3. 月のかたちと呼び名 99

2-4. 月の観察 101

2-5. 月と地球と太陽 101

2-6. 月の形の見え方 102

3. 秋祭り 106

3-1. お祭り 106

3-2. 祭りと地域生活 107

4. 敬老の日 108

4-1. 老人福祉の意味 108

4-2. 優先席 109

コラム 家族・家庭のあり方を考える 109

5. 重陽の節句（節供） 110

5-1. 菊合せ・菊人形 110

5-2. キク（菊）の花 110

10月

神無月（かんなづき） 111

1. えびす講 113

2. 体育の日 114

2-1. オリンピック 114

2-2. パラリンピック 116

2-3. アジア競技大会 117

2-4. 国民体育大会（国体） 117

2-5. 運動会 118

コラム 国民の休日 119

3. 共同募金（赤い羽根） 120

11月

霜月（しもつき） 121

1. 七五三 123

1-1. 七つまでは神のうち 123

1-2. 成長を承認する通過儀礼 123

1-3. 11月15日 126

1-4. 千歳飴 127

コラム ハレ（晴）とケ（曇） 127

2. 勤労感謝の日 128

- 2-1. 「労働」すること 128
- 2-2. 収穫感謝祭 128
- 2-3. メイ・フラワー号 129

3. 酉の市 130

コラム 物の生産と消費 130

4. 太陽暦採用記念日 131

- 4-1. わが国の改暦 131
- 4-2. 太陰暦 131
- 4-3. 太陽暦 132
- 4-4. 六曜・六輝 132
- 4-5. 十干十二支 133
- 4-6. 「草木も眠るうしみつどき」(時刻と方位) 135

12月

師走 (しわす)

137

1. 冬至 139

- 1-1. 冬至と人びとの生活 139

2. クリスマス (降誕祭) 141

- 2-1. 「クリスマス」の成立 141
- 2-2. イエス降誕の物語 141
- 2-3. サンタと大師 (太子) 143
- 2-4. サンタ・クロース 143
- 2-5. クリスマスからのメッセージ 144

コラム クリスマス・ツリーとキャロル 145

3. 歳末・大晦日 146

- 3-1. 門松 146
- 3-2. 年越しそば 147
- 3-3. 除夜の鐘 147
- 3-4. お歳暮 148

1月

睦月 (むつき)

149

1. お正月 151

- 1-1. 雑煮とおせち 151
- 1-2. 屠蘇 152
- 1-3. 初詣 153
- 1-4. 初夢 153
- 1-5. お年玉 153
- 1-6. どんど (小正月の火祭り) 154

2. 七草 155

- 2-1. 七草がゆ 155
- 2-2. 春の七草 156
- 2-3. 「豊かな」食生活のふりかえり 158
- 2-4. 自然の恵み 158

コラム 秋の七草 159

3. 成人の日 160

2月

如月 (きさらぎ)

161

1. 節分 163

- 1-1. 鬼やらいと豆まき 163
- 1-2. 鬼を打ち福を招く 165
- 1-3. 悪霊を祓う 165

コラム 鬼 166

2. 建国記念の日 167

3. 日本の気団と天気 169

- 3-1. 日本の気団と天気 169
- 3-2. 典型的な冬の天気 171

- 3-3. 春の天気と秋の天気 172
- 3-4. 高気圧と低気圧 175
- 3-5. 不連続線（温暖前線・寒冷前線） 178

3月

弥生（やよい） 181

1. ひなまつり 183
 - 1-1. ひなまつり 183
 - 1-2. おひなさま 183
2. 彼岸（春分・秋分の日） 185
 - 2-1. 此岸と彼岸 185
 - 2-2. お彼岸 186
 - 2-3. 暑さ寒さも彼岸まで 186
3. 春本番（自然体験を楽しむ） 187
 - 3-1. 豊かな日本の自然 187
 - 3-2. 啓蟄 188
 - 3-3. 自然の移り変わり 188
 - 3-4. 自然の中での遊び 189
 - 3-5. 自然を知る 189
4. 春分・秋分、夏至・冬至 191
 - 4-1. 1日・1時間・1分・1秒 191
 - 4-2. 春分と秋分、夏至と冬至 192
 - 4-3. 日の出と日の入り 193
 - 4-4. 太陽の高さ 194

カラー資料 雑木林の季節変化 197

引用・参考文献 201

索引 205

まえがき

私たちが住む日本は、実に豊かな国であると思います。春、夏、秋、冬という四季（4つの季節）がはっきりとした形で、変わらずめぐってきますし、気候にも富んでいます。それぞれの季節にあった食材も提供してくれます。山の幸のみならず、四面環海で海の幸も豊富です。

また、1月から12月まで、年中行事が伝統的に定着し、定期的に催されてきました。その四季と年中行事とは大変強いつながりを持っています。とりわけ、稲作農業を中心として生業を成り立たしめてきた日本では、自然の流れに沿うような形で生活が送られています。つまり四季を織り込んで暮らしてきたのです。そして、それらが生活に節目をつけ、リズムを刻んできたのです。

本書は、こうした四季と年中行事とを基軸とした生活を、特に「子どもの生活・環境」という視点からまとめようとしたものです。ここでとりあげる年中行事は、主として日本に伝統的に伝わってきたものですが、近年外国から伝わったものも含んでいます。いずれにしても、「子どもの生活・環境」にかかわりのある、そして日常的なものを取り上げています。

私たち3人の筆者は、いずれも同じ大学で保育者養成にかかわっている者です。いつも顔を合わせるたびに保育内容「環境」の教え方、教材の作り方の難しさについて論じてきました。2人は自然科学（生物学）を、1人は社会科学（保育社会学）を専攻し、そして、3人とも科目「環境」を担当しています。「環境」には自然事象がより多く含まれてはいますが、社会事象も欠かせない部分です。どちらが不足しても適切ではありません。そこで今回、3人で協力してテキストを作ってみようではないか、ということになりました。

しかし、いざ原稿を書き始めてみると、それほど簡単ではないことに気づきました。冒頭、四季と年中行事とがつながっているといいましたが、実際に一冊の書物にする事は難しい作業でした。3人で、しばしば議論し、ようやくここまできました。まだまだ不十分なものですが、何とか皆様に読んでもらえるものに仕上げたつもりです。諸者諸兄弟のご高評を請うしだいです。

最後に、親身になって助言と支援とをいただいたインデックス出版の方々に謝意を表します。

平成16年10月末日

近藤 正樹

民秋 言

吉川 研二

4月

卯月 (うづぎ)

うづぎ
卯木の白い小さな花の咲く月

卯花月 (うのはなづぎ)

余月 (よげつ)

乾月 (かんづぎ)

鳥待月 (とりまちづぎ)

花名残月 (はななごりづぎ)

ひさかたの光のどけき春の日に

しづ心なく花の散るらむ

きの とものり
紀 友則 (生没年不詳、えんぎ延喜7 (907) 年頃没)



4月のこよみ

	主な行事・記念日	二十四節気 (新暦のおよその日付)
1日	児童福祉法施行 (1948・施行)	
2日	図書記念日 (1872・東京湯島に東京書籍館)	
5日		4・5 清明 (春には万物が清浄明瞭となる)
6日	春の交通安全運動 (～15日) 第1回近代オリンピック開催 (1896・ギリシャのアテネ)	
7日	世界保健デー (1946・世界保健機関 (WHO) 発足)	
8日	花祭り (灌仏会) (BC463・釈迦の誕生日)	
10日	女性の日 (1946・日本で初の女性参政権)	
11日	メートル法公布記念日 (1951・計量法)	
12日	世界宇宙飛行の日 (1961・ソ連ガガーリン少佐宇宙飛行成功「地球は青かった」)	
18日	発明の日 (1885・専売特許条例)	
19日	通信記念日 (1871・国営の郵便局制度)	
20日		4・20 穀雨 (穀物を育てる雨)
21日	民間放送発足 (1951)	
28日	サンフランシスコ平和条約発効記念日 (1952)	
29日	● みどりの日 (昭和天皇誕生日、戦前は天長節)	
30日	図書館記念日 (1950・図書館法)	

1. お花見^{はなみ}

お花見は桜の花を楽しむ（鑑賞する）ために山野に出て遊び、または酒宴を催すという春の行事です。これは歴史的にも長い伝統を持っています。

平安時代にはしばしば詩歌の題材とされてきました（古代には桜ではなく梅を愛でるといふ習慣があったといわれます）。例えば、「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」（在原業平^{ありはらのなりひら}）や「花の色は移りにけりないたづらに我が身世にふるながめせし間に」（小野小町^{おののこまち}）などは有名です。これらは貴族の楽しみで、庶民の行楽として花見が楽しめるようになったのは江戸時代のことです。「花の雲鐘は上野か浅草か」（芭蕉^{ばしやう}）の句にもあるとおり、上野（江戸）の桜は当時も有名で、多くの花見客を集めていました。

今日では、私たちが桜が咲くと、その頃の陽気とともにウキウキとした気持ちになります。満開の桜の下で弁当を広げたり、桜の花をゆっくり眺めたりしています。

1-1. サクラの種類^{しゅるい}

サクラは分類学上はバラ科に所属する木で、ウメ・アンズ・スモモ・モモ・ユスラウメとともにサクラ属（*Prunus*）に分類されています。あまりにも種類が多いので、さらにサクラ亜属、サクラ節に細分された種類たちです。

普通、サクラとして知られているのは14種¹⁾程ですが、自然交配や品種改良によって多くの園芸種が作られています。園芸品の代表ソメイヨシノは豊かな花をつけるので人気がありますが、人為品種なのでテングス病にかかりやすい欠点を持っています。

園芸品種サトザクラの中で、八重咲になる品種をヤエザクラと称し²⁾、花は塩漬にして食用にします。この八重は雄しべの薬^{やく}が花弁化したもので、

1) 大井次三郎 / 著『新日本植物誌 顕花編』至文堂 (1983) 864～872 頁、佐竹義輔・原寛・亓理俊次・富成忠夫 / 編『日本の野生植物 木本 I』平凡社 (1989) 186～198 頁、牧野富太郎 / 著・小野幹雄・大場秀章・西田誠 / 改訂『改訂増補 牧野新日本植物図鑑』北隆館 (1989) 304～310 頁

2) 「奈良七重七堂伽藍八重桜」と芭蕉が詠んでいますが、この八重桜は実の成る珍しい品種です。

葯の痕跡が残っている花卉もあります。

また、サクラの葉にはクマリンが多いので香りが良く、桜餅に用いられています。とくにオオシマザクラ系の品種（オオシマザクラ・サトザクラ・ソメイヨシノ）は桜餅の葉として知られています。

1-2. サクラ前線

わが国は、沖縄から北海道まで南北に長く、したがって、桜の開花も3月中旬から5月中旬にまで広がります。3月に入ってよく耳にする「サクラ前線」という言葉は、サクラ（主にソメイヨシノ）の開花が順次移行していく様を示しています。正しくは「開花前線」といいます。

つぎに、ソメイヨシノなど主なサクラの「サクラ前線」をみてみましょう。サクラの開花前線と満開になる前線³⁾を並べてみました。

図表4-1はサクラの代表格ソメイヨシノの「サクラ前線」です。江戸時代に東京駒込の園芸家がオオシマザクラとヒガンザクラとを交配して作った品種といわれています。葉が出る前に豊かに花を咲かせるので見心え^{こころえ}があり、現在ではサクラと言えばこの種類を思い出すほどになりました。

図表4-2はソメイヨシノの一方の親木として知られるヒガンザクラの「サクラ前線」です。別にヒガンザクラといわれるサクラもあるのでご注意ください。ヒガンザクラから生まれたものにシダレザクラがあります。

図表4-3はヤマザクラの「サクラ前線」です。ソメイヨシノよりやや遅れて咲き、花よりも葉が先に咲きます。奈良時代から有名な観桜会は吉野山のヤマザクラでした。

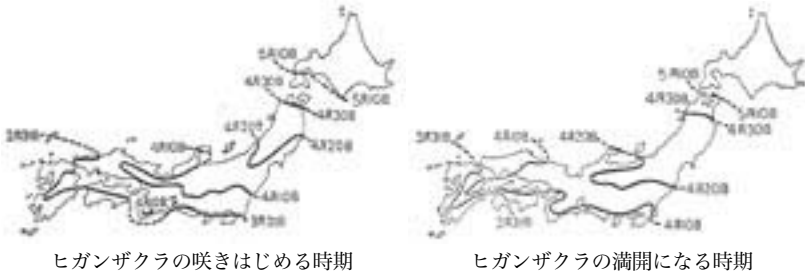
図表4-4はヤエザクラの「サクラ前線」です。サトザクラの八重咲き品種で、他のサクラよりも遅く咲き始めます。雄しべが花弁化しているのであまり実が付きません。いずれの種類も咲きはじめると、すぐに満開になり、花期も短いので、お花見も一定時期に集中します。

3) 大後美保『季節の事典』東京堂（1961）121～126頁、187～189頁、230～232頁、234～236頁；開花日と満開日は統計のために指定した木の報告に基づいたものです。それよりも早く咲く木もあります。満開日は100%咲いたというのではなく80%が咲いた日と規定してまとめています。

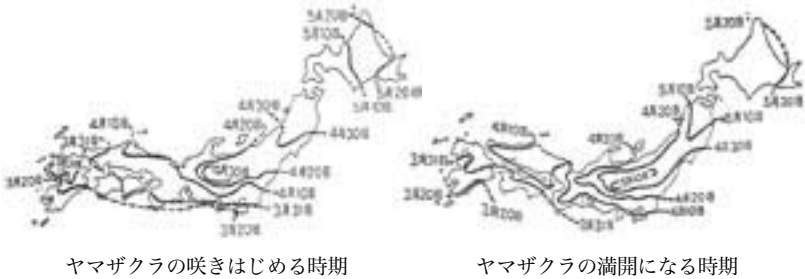
図表 4-1 ソメイヨシノの開花・満開の時期（『季節の事典』より）



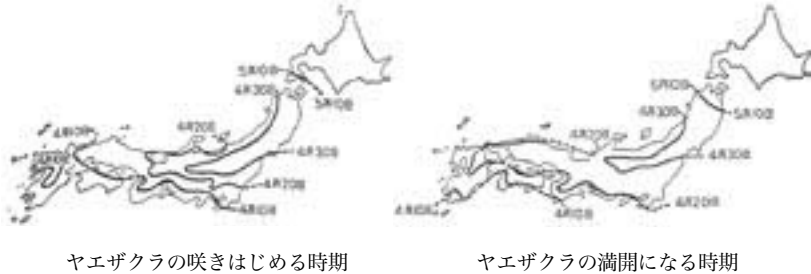
図表 4-2 ヒガンザクラの開花・満開の時期（『季節の事典』より）



図表 4-3 ヤマザクラの開花・満開の時期（『季節の事典』より）



図表 4-4 ヤエザクラの開花・満開の時期（『季節の事典』より）



尚、図表 4-1～4-4 に示した月日は気象庁産業気象課が統計的にまとめたものです。その年の気候などによって必ずしも一致していません。

1-3. 桜の名所

桜の名所といわれるところは全国至る所にみられますが、特に、奈良県吉野山、京都市嵐山・同御室、茨城県桜川、岐阜県霞間が溪、東京都小金井市、同上野、同飛鳥山、仙台市榴が岡などが古くから有名です。

また、愛知県木曾川堤や東京都荒川堤などが明治以後の植樹として有名です。

いままでに、日本から外国に、移植された（贈られた）桜も多く、とくにアメリカのポトマック河畔の桜（ソメイヨシノ）は見事な花を咲かせています。

1-4. 桜を詠んだ歌

桜は日本文化の象徴ともいわれるほど、日本人に慣れ親しまれてきました。それは、桜を詠んだ和歌がすくなくないことからわかります。つぎに身近な「百人一首」の中から「桜(=花)」を詠んだものを拾ってみましょう。

花の色は移りにけりないたづらに

我が身世にふるながめせしまに

小野小町（おののこまち）

いにしへの奈良の都の八重桜

今日九重に匂いぬるかな

伊勢大輔 (いせのたいふ)

もろともにあはれと思へ山桜

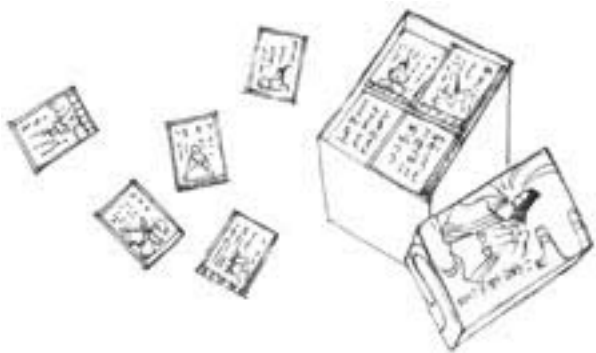
花より外に知る人もなし

先大僧正行尊 (さきのだいそうじょうぎょうそん)

花さそふ嵐の庭の雪ならで

ふりゆくものは我が身なりけり

入道先太政大臣 (にゅうどうさきのだいじょうだいじん)



コラム 緑の週間

植物の吸水力が増して、葉を展開する季節に併せて、自然を讃え、緑化運動を啓発しようと4月23日～29日の1週間を「緑の週間」とよびます。最後の29日はみどりの日として休日になっています⁴⁾。

一般的な目安として、5℃より暖かくなると吸水力が増して、植物が活動を始めるといわれています。日本やヨーロッパ諸国の植生では落葉広葉樹が見られるので、このような発想がおこるのです。しかし、常緑樹林帯ではこのような着想は育ちません。

ちなみに、夏だけ草や蘚苔が生え、緑に彩られる氷原地帯という意味で、グリーンランドと呼ばれていることを思い出すと、いかに植物の展開が人生の希望や楽しみに貢献しているかがわかります。

週を規定することにより休日を活用して、植樹祭や緑の羽募金などができるように設定した企画です⁵⁾。

4) 4月29日は昭和天皇の誕生日で休日でした。昭和天皇が崩御（ほうご死去）されたため、天皇誕生日が変更になったので新しい休日としてあてはめたものです。

5) 同様に週間を規定したものにバード・ウィーク（愛鳥週間）などがあります。

5月

皐月 (さつき)

さなえ
早苗を植える月

早月 (さつき)

雨月 (うげつ)

橘月 (たちばなづき)

田朝月 (たぐさづき)

月水月 (つきみずづき)

五月雨月 (さみだれづき)

つくばね みね お みなのがわ
筑波嶺の峰より落つる男女川

恋ぞつもりて淵となりぬる

ようぜい
陽成院(陽成天皇)(貞観10(868)～天曆3(949)年)

